

北岩蔵大雲寺は天台宗にして、本尊は聖觀世音の立像なり、行基の作とぞ。抑此寺のはじめは、王城の北の空に紫雲のたなびく所あり、衆人は是をあやしむ。去によつて勅使として右近衛中将何某をつかはし見せしめ給ふに、此山の巔なり。勅使不思議に思ひ給ふうち、忽然としてかしらに雪をいたゞきたる老尼現れ、曰、此地はこれ觀世音降臨の靈地なり。又高峰にいたるに異香四方に薫じたる靈嶽あり、是を窺見れば音楽を奏して、其中より觀世音の光明赫々たる尊体を拜して、此地に伽藍をたて給ひて、行基の作り給ひし尊像を本尊となす。大雲寺の額は詔によつて佐理卿筆を染たまひしなり。「今本堂にかくる是なり」開基は智辨僧正なり。「伝釈書に出る」又此所を岩蔵となづくる事は詔あつて王城の四方に石蔵をいとなみ経王を納めらる、其辺りに石座明神まします、是れ石蔵のゆゑなり。